

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21 年 12 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000523		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	グループホーム ふれあい～朝里		
所在地	〒047-0152 小樽市新光町1丁目2番20号 (電 話) 0134-54-6541		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】 (21年9月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15 年 10 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	27 人 常勤 13人, 非常勤 14 人, 常勤換算 23.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		
その他の経費(月額)	水光熱費 月16,000円 ・ 暖房費 月6,000円 (11月~5月)		
敷 金	有 (45,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
	無		
食材料費	朝食	215 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,165 円		

(4) 利用者の概要 (12 月 2日現在)

利用者人数	27 名	男性 2 名	女性 25 名
要介護 1	2 名	要介護 2	9 名
要介護 3	8 名	要介護 4	6 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 75 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝里病院・三ツ山病院・おたる港南クリニック・阿久津内科・本間内科・おつき歯科・朝里整形外科病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は開設して7年目に入り運営基盤も堅固なものになっている。住宅街の静かな環境の中にあるが、近隣には共同住宅、病院、有料老人施設などがあり、その一角に事業所が違和感なく建っている。事業所に隣接している家の庭に大きな桜の木があり、その下で利用者と地域の方とお花見をしたりするなど交流を持っている。いつも利用者本位の意識を大切に、その人らしく誇りのある暮らしを続けることを、ホーム長、職員が積極的に熱意を持って支援している。ホーム長、職員の信頼関係も厚く、いつも笑顔の絶えない職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の評価では、運営推進会議に地域住民の参加が少ない。ということが課題とされていたが、町内役員、民生委員の参加があり改善されている。災害時に備え地域住民の協力体制が課題とされていたが、近隣の有料老人施設との相互避難場所の協力が得られ改善されつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 3ユニット全職員が自己評価項目に取り組み、管理者、リーダーが中心となって検討を重ね作成している。日々のケアを振り返る視点ととらえ、よりよいケアに結びつけるように取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。地域包括センター長、家族会代表、町内役員、町内民生委員、協力病院職員、調剤薬局職員、事業所からはホーム長が参加している。事業所の運営状況、利用者の生活状況、事業所の行事報告など意見交換を行い、それぞれの立場から要望など活発な意見をいただきそれを運営に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 玄関ホールや、重要事項説明書に苦情窓口と対応方法を記載、表示されている。また、気軽に意見、要望、不満を言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮し、出された意見等について会議を開いて検討し、そこの意見を運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 町内会に加入しており、お祭り、運動会の参加など地域の一員として受け入れられている。事業所の行事(焼き肉パーティ)には地域の方の参加も多い。事業所を「介護何でも相談所」として地域に開かれた拠り所となっている。また、「地域まちづくりの会」に職員が入会し、地域おこしのための協力や、利用者と一緒に参加するなど地域活動に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、職員が意見を出し合って理念の見直しを図り、地域の一員としてその人らしく生活することを重視した事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールや、事務室の目の付きやすい場所に掲示しミーティングなどで話し合い意識付けを図るとともに、職員のネームプレートに理念を表示して日々の確認に努めている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内のお祭り、運動会に参加するなど、地域の一員として受け入れられている。また、地元の「まちづくりの会」に職員が入会し、地域おこしの協力や、利用者と一緒に参加するなど地域活動に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3ユニット全職員が自己評価項目に取り組み、管理者、リーダーが中心となって協議し、検討を重ね作成している。日々のケアを振り返る視点ととらえ、よりよいケアに結びつけるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から地域の民生委員の参加も増え運営推進会議は2ヶ月に1度実施され、利用者の生活状況、各種行事の内容報告など話し合い出席者の活発な意見をいただき、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課や、市の関係機関の職員と相談や、意見を仰ぐことも多く、日常的に連携を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行している。個別に日頃の暮らしぶりや健康状態を手書きのお便り、職員の異動等について報告を行っている。また、家族の来訪時には現金出納帳の確認をしていただくなど詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情窓口と対応方法を表示されている。また、気軽に意見、要望を言ってもらえるように配慮している。出された意見等について会議を開いて検討し、そこでの意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者の精神的な負担を考慮し人事異動は最小限に抑えるように配慮している。職員の定着率も高く、利用者へのダメージを最小限にとどめている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修には、市保健所の保健師が講師となり介護予防についての知識の向上と、ケアに対する理解を深めるように研修を行っている。また、外部研修には積極的に参加を進め、サービスの質の向上や介護福祉士資格取得の育成に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は小樽市グループホーム協議会の副会長を務めており、同業者との交流やネットワークづくりや勉強会などの取り組みを行っている。	○	運営者、管理者は同業者との交流を持つ機会は多いが、職員間の交流により、情報交換、知識の向上のために相互訪問の実施に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時は事業所の特色について説明し、利用者と家族が見学を行い本人が納得した上でサービスを利用できるように職員が事前訪問し面接を行っている。利用者が安心して馴染めるように家族と相談しながらサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の関わりの中で、本人の能力、体調に合わせた掃除、調理など利用者と共にしながら学ぶことも多く、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
、本人が納得した上でサービスを利用できるように職員が事前訪問し、面接を行っている					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、コミュニケーションや、表情から本人の希望や意向を大切にしながら把握に努めている。利用者一人ひとりの個性を大切にしながら、その人らしさを尊重し支援している。		
。利用者が安心して馴染めるように家族					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケアプラン検討会議において、利用者の日々の生活や、見守りの中で本人の思いと、家族の要望、職員からの情報をもとに介護計画を作成している。職員間のチームワークがよく活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載されている個別の期間を目安に評価を行い計画的に見直しが行われている。利用者に変化が見られた場合には本人、家族、職員間で話し合い速やかに対応するような体制がとられている。		
。利用者が安心して馴染めるように家族					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院、買い物、美容院など利用者の希望に応じて外出、家族の状況に応じて多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院や家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。また、協力病院の中で24時間対応の医療連携が出来ているのも心強い。家族への報告を適切に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援は、契約時の段階から事業所の方針や事業所のでき得ることを本人、家族に説明している。事業所内でターミナルケアの経験もあり重度化や、終末期についての方針を全員で共有し取り組んでいる。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に利用者一人ひとりの意思と尊厳を大切にし、やさしく声掛けや敬意のある対応に日々配慮している。個人情報の記録等も事務所内にきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら利用者の希望を大切に考え、生活のペースを乱すことなく、押し付けにならないよう出来るだけ個別性のある支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の大きな楽しみととらえ、会話を楽しみながら好きな音楽をかけたり、嗜好に配慮した献立となっている。本人の食べる意欲を優先しながら自力でゆっくりと食事ができる支援に努めている。食事の後片付けなども職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴を行っている。利用者の希望や体調によりその限りではなく、個別に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者家族からの情報をもとに、生活歴、身体状況などを念頭におきながら、家庭菜園、花壇の水やり、縫い物、買い物など利用者の意欲や希望など力量に合わせた楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調などを考慮しながら、散歩、ドライブ、外食など日常的に利用者の希望に合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関には鍵をかけていない。外出しようとする利用者に職員はそっと寄り添うなどの支援をしている。夜間は防犯上の問題もあり施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施している。近隣の有料老人施設と相互避難場所としての協力体制を確保している。次年度スプリンクラーの設置が予定されている。	○	3階建ての構造上、災害時は地域の協力が不可欠と考えられる。地域住民も高齢化が進み協力体制には困難が見られるが、運営推進会議で協議していただきながら、地域の協力体制を築くことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一人ひとりの食事の量、水分量など細かく記録し、利用者の体調に応じて食事の量を加減したり、協力病院の管理栄養士に摂取カロリーのアドバイスを受けるなど状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下の奥にはベンチがあり、利用者が好きな場所でゆったりと過ごせるようになっている。居室入口には飾り棚があり、それぞれの思い出の品が飾られており、居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、家族の協力を得て本人が使い慣れた家具、仏壇、家族の写真など本人が大切にしている品々が持ち込まれ、本人が安心して過ごせるその人らしい部屋になっている。		

※  は、重点項目。